

DERWENT-ACC-NO: 1977-51233Y

DERWENT-WEEK: 197729

COPYRIGHT 1999 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Soil stabilising spraying compsn. -
comprises powdered water-soluble polymer, dissolving
assistant and fertiliser, and liq. polyvalent
alcohol

PATENT-ASSIGNEE: HAYASHI KAGAKU KOGY[HAYAN]

PRIORITY-DATA: 1975JP-0145326 (December 5, 1975)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PAGES	PUB-DATE	
LANGUAGE		MAIN-IPC	
JP 52068715 A		June 7, 1977	N/A
000	N/A		
JP 78011778 B		April 24, 1978	N/A
000	N/A		

INT-CL (IPC): A01N007/02, C05G003/04 , E02D003/14 ,
E02D031/00

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 52068715A

BASIC-ABSTRACT:

A soil-stabilising spraying agent is provided which is capable of being sprayed almost uniformly from an aircraft and easily dissolved even in a small amt., of water e.g. a rain, a dew and a frost etc. and permeated into the ground without causing moisture absorption bonding of polymer granules and coagulation of soil granules of the surface layer.

The soil-stabilising spraying agent comprises (1) a powdered water-sol. polymer e.g. Na polyacrylate, a partially

hydrolysed polyacrylamide,
polyethylene oxide, polyvinyl amine, a water-sol. urea
resin, CMC, dextrin,
sodium alginate etc., (2) a non phytotoxic dissolving
assistant and fertiliser,
e.g. KCl, NH₄Cl, K₂SO₄ K₃PO₄, (NH₄)₂SO₄, urea or deriv.
thereof etc., and (3) a
liq. poly-valent alcohol serving as a water-absorbing and
moisture-retaining
agent and also for preventing blowing-away of the powdered
water-sol. polymer
by wind when it is sprayed from the aircraft, e.g.
ethyleneglycol,
triethyleneglycol, glycerin and polyethyleneglycol having
mean mol. wt. <400.

TITLE-TERMS: SOIL STABILISED SPRAY COMPOSITION COMPRISE
POWDER WATER SOLUBLE

POLYMER DISSOLVE ASSIST FERTILISER LIQUID
POLYVALENT ALCOHOL

DERWENT-CLASS: A97 C04 Q42

CPI-CODES: A12-A02; A12-W04; C04-C02; C04-C03; C05-A01A;
C05-B02A; C05-C01;
C10-A13C; C12-N08; C12-N09; C12-N10;

CHEMICAL-CODES:

Chemical Indexing M1 *01*

Fragmentation Code

V731 V732 V733 V734 V735 V711 V712 V713 V714 V742
V743 L431 L432 H181 J111 J171 J371 H482 H483 H484
H521 H523 H581 H583 H584 H589 M620 H721 M630 M431
P124 P126 P127 M510 M520 M530 M540 M782 R003 M423
M902

Chemical Indexing M2 *02*

Fragmentation Code

A940 C730 C108 C100 C316 C803 C806 C802 C807 C805
C804 B720 C801 A119 C500 C540 B815 B819 B831 B115
C017 B701 B713 M431 P111 P112 M782 R003 M411 M902

Chemical Indexing M2 *03*

Fragmentation Code

K0 M320 M280 L431 L432 M620 M431 P113 M510 M520
M530 M540 M782 R003 M416 M902

Chemical Indexing M2 *04*

Fragmentation Code

H4 M312 M313 M314 M332 M321 M323 M280 M342 M343
M380 M391 M393 H482 H483 H484 H581 H582 M620 M431
P124 P126 P127 M510 M520 M530 M540 M782 R003 M416
M902

POLYMER-MULTIPUNCH-CODES-AND-KEY-SERIALS:

Multipunch Codes: 010 028 039 04- 06- 074 075 076 086 09-
103 139 147 153 175
185 186 191 198 230 231 24- 240 244 252 259 336 393 479 532
537 575 583 589 611
623 626 632 688 720 722



(4000円)

特許願

昭和50年12月5日

特許庁長官

トシウアンテイサンブサイ

殿

1. 発明の名称 土壌安定散布剤

2. 発明者

住所 オオサカフネキノシ
大阪府羽曳野市はびきの4丁目10-9

氏名 キンモトヨシヨシ

3. 特許出願人

キョウトシミナミクキツシヨインイシハラドウ アトニシチヨウ

住所 京都府京都市南区吉祥院石原堂の後西町
31番地

名称

ハヤシカガクコウギョウ

林化学工業株式会社

ナヤシ

ナガレ

代表者

林

登

4. 代理人 〒604

京都市中京区御幸町通三条上る丸屋町330番地の1

弁理士(1618)新実芳太郎

同

所 弁理士(5963)新実健郎

5. 添付書類の目録

- (1) 委任状
- (2) 明細書
- (3) 出願審査請求書
- (4) 特許願書副本

1

通

方式

1

通

審査

1

通

通

1

通

通

50 145226

明細書

1 発明の名称 土壌安定散布剤

2 特許請求の範囲

水溶性高分子の粉末、溶解補助剤及び液状多価アルコールの混合物からなり、上記溶解補助剤がカリウムもしくはアンモニウムの塩酸塩、硫酸塩又はリン酸塩、尿素及び尿素誘導体からなる群から選ばれることを特徴とする土壌安定散布剤。

① 日本国特許庁

公開特許公報

① 特開昭 52-68715

④ 公開日 昭52.(1977) 6.7

② 特願昭 50-145226

② 出願日 昭50.(1975) 12.5

審査請求 有 (全5頁)

庁内整理番号

2114 46

2114 46

2114 46

⑤ 日本分類

J6(1)D3/2

J6(1)D3/1

J6(1)D3/2.4

⑤ Int.Cl?

E02D 3/14

/

/

/

/

/

/

/

/

識別
記号

106

101

110

2

3 発明の詳細な説明

本発明は、山腹の傾斜地など比較的緑化の困難な地目にも、ヘリコプターなど航空機を用いた空中散布方式で作業性よく適用できる土壌安定散布剤に関するものである。

従来の土壌安定化工法では、ポリ酢酸ビニル系エマルジョンなど高分子化合物の水性エマルジョンや水溶性高分子の水溶液のように水を媒体とした散布剤を使用するのが一般的であつたが、航空機による空中散布方式ではその塔域量が少ないために使用が困難であり、その施工に限度があるとされてきた。

そこで、上述の如き湿式法でなく、乾式法の開発も種々試みられてきたが、今だ満足するものが得られていなかった。つまり、水溶性高分子であつても土壌安定性を付与できるほどの高濃度が得られず、従つて、土壌表面に単に水溶性高分子化合物になると、溶解性高分子粉末を散布した場合に、土壌が湿潤しているときには土壌中の水分を吸収し、また乾燥しているときは降雨などにより膨潤、溶解するが、完全には溶解せ

ず、表面のみが溶解した状態となる。このため、土壌中には浸透し難く、むしろ膨潤高分子粒子が集まつて結合したり、周囲に土壌粒子を付着して団子状となり易い。そして、一旦土壌表面上に凝集したものは多量の降雨によつても溶解せず、良好な土壌安定性が得られないのが実状である。また、上記溶解性を改良するために水溶性高分子を微粉末化した場合には、空中散布で飛散する可能性が高く、作業性が悪く不経済なだけでなく、土壌表面全体を均質に安定化することは困難であつた。

そこで、このような欠点を解消し、小容積でかつ均一な空中散布がし易く、水への溶解性も高いという効果的な土壌安定散布剤を提供するべく本発明は開闢されたものである。

本発明は、少なくとも水溶性高分子の粉末、溶解補助剤及び液状多価アルコールの三成分からなる土壌安定散布剤である。

ここに、水溶性高分子とは水溶性であれば天然高分子であつても、合成高分子であつてもよ

5

う、グアガムなどが含まれる。

水溶性高分子粉末の粒度は、特に限定されないが、粒径200μ以下のものが散布効率及び土壌安定性の面から好ましい。

次に、溶解補助剤としては各種塩類、尿素などが含まれるが、植物に悪影響を及ぼさないことが必要であり、肥料成分としても有効なものが好ましい。一般に、カリウムもしくはアンモニウムの塩酸塩、硫酸塩又はリン酸塩、尿素及び尿素誘導体（例えばチオ尿素）などの使用が好ましい。

また、多価アルコール類は吸湿効果を土壌安定散布剤に付与することを目的とするため、液状であることが望ましく、経済的なエチレングリコール、ジエチレングリコール、トリエチレングリコール、平均分子量約400以下のポリエチレングリコール、プロピレングリコール、グリセリンなどの使用で十分である。

本発明の土壌安定散布剤の各成分の好ましい配合比率（重量割合）は、水溶性高分子粉末3

特開 昭52-68715(2)

く、例えばポリアクリル酸ソーダ、ポリアクリル酸アンモニウム、ポリイタコン酸ソーダ、ポリメタクリル酸ソーダ、ポリアクリルアミド（部分加水分解物、スルホン酸誘導体、陽イオン変性物）、ポリスチレンスルホン酸ソーダ、ポリビニルアルコール部分縮化物、ポリエチレンオキシド、ポリビニルアミン、ポリビニルメチルエーテル、ポリエチレンイミン、ポリビニルピリジン塩酸塩、ビニルピリジン共重合体塩、マレイン酸共重合体塩、ポリチオ尿素塩酸塩、水溶性アニリン樹脂塩酸塩、水溶性尿素樹脂、ポリビニルベンジルトリメチルアンモニウムクロライド、カルボキシメチルセルロース、ヒドロキシエチルセルロース、シアノエチルセルロース、メチルセルロース、エチルセルロース、グリコールセルロース、カルボキシメチルデンプン、シアノエチルデンプン、ジメチルアミノエチル化デンプン、陽性デンプン、α化デンプン、デキストリン、アルギン酸ソーダ、アラビアガム、トラガントガム、ローカストビーンガ

6

ム、グアガムなどが含まれる。0～60%、溶解補助剤65～25%及び多価アルコール類5～15%であり、水溶性高分子粉末100部に溶解補助剤70～150部を加えて充分混合した後、この混合物100部に溶解補助剤を溶解含有している液状多価アルコール類5～20部を加えて混合攪拌するというような方法で配合調製するのが一般的である。

本発明の土壌安定散布剤は、水溶性高分子粉末が溶解補助剤や多価アルコール類で増粘され一部膨潤した水溶性高分子粉末粒子の周囲を溶解補助剤が取り囲んだ状態を有しているため、空中散布によつてもほぼ均一に散布でき、吸湿による高分子粒子間の結合や表層土壌粒子の凝集も起こりにくく、また僅かの水分、例えば、降雨、夜露、霜などにより簡単に溶解して効果的に土壌表層に浸透するものである。

本発明で液状多価アルコール類は、吸水及び保湿剤として働くと共に水溶性高分子粉末が空中散布の際に風に流されるのを防ぐ働きをするものである。しかし、あまり多量に用いると、

流動性が悪くなり、散布し難くなるので他成分との配合を考慮して前述の如く使用量を調整するのが好ましい。

また、溶解補助剤は水溶性高分子の溶解性を高め、水溶性高分子粉末間の結合を防止して水溶性高分子の土壌への浸透性を増すものであり、場合によつては肥料成分としても働くものである。従つて、土壌安定散布剤として均一な空中散布を可能とし、水溶性高分子の溶解性を改良するのに十分な量の使用が必要であるが、あまり過剰に用いた場合には、植物の生長に悪影響を及ぼす場合もあるので、注意しなければならない。

このように本発明の土壌安定散布剤は上記各成分の機能の相乗効果によつて、著しく良好な性能を呈するものである。

水溶性高分子は、例えばポリアクリル酸塩はその弱カチオン性により、またカルボキシメチルセルロースはイオン交換性によりというように種々の方法で表面土壌粒子と水素結合などの

9

りである。

組成物	時間
A	7 2
B	2 4
C	1 0

溶解性については、勾配5度のガラス板上に厚さ約1mmの状態で上記各組成物を散布し、次に噴霧器で10mm/hrの割合で散水し、各組成物の膨潤溶解に要した時間及びその経過状態を観察した。

組成物	半 時 間	1時間	5時間
A	部分膨潤、ままこ状		膨潤溶解
B	膨潤、溶解始まる	膨潤溶解	—
C	膨潤溶解	—	—

水溶性高分子の粉末に溶解補助剤と液状多価アルコールを混合した本発明の散布剤である組成物(C)が非常に吸湿性、溶解性に優れていることがわかる。

本発明の土壌安定散布剤は、単独で土壌表面に散布して土壌安定化を図るだけでなく、種子、

特開 昭52-68715 (3)

結合をして、土壌安定化に均質に作用し、また溶解補助剤は一部土壌中に吸着して肥料としても働くが、大部分は多量の降雨などによつて多価アルコールと共に流亡しうるものと考えられる。

本発明の散布剤の吸湿及び溶解特性を明らかにするために一試験結果を示すと、次の通りである。

(以下特別な記載がない限り数値は重量割合を示すものである)

- A: ポリアクリル酸ソーダとカルボキシメチルセルロースの1:4混合物
 B: ポリアクリル酸ソーダ、カルボキシメチルセルロース及び尿素の1:4:3混合物
 C: 上記Bの混合物であつて、分子量200のポリエチレングリコールを5%の割合で含有するもの

上記A、B、C各組成物をガラス板上に室温下で放置して、ガラスとの接着性及び各組成物の固結性に要する時間を測定した結果は次の通

10

肥料、被覆材など各種成分と混合使用できることは勿論である。種子、肥料などと混合して散布した場合水溶性高分子が効果的に膨潤溶解するため、種子の土壌面への浸透性(接着性)が発揮されて降雨などによる種子の流亡が防止され、また発芽に至るまでの保湿度をも高める。従つて、本発明の土壌安定散布剤を使用した緑化工法では、従来の高分子化合物の水溶液を媒体とした緑化工法と同等の発芽状態を認めうるものであり、山腹の傾斜地など複雑な地目にも空中散布方式で容易に均質な緑化をなしうるものである。

本発明の土壌安定散布剤を緑化工法に使用する場合の代表的な組成は次の通りである。

土壌安定散布剤	10~25%
肥 料	85~60%
種 子	5~15%

次に本発明の実施例を示す。

実施例〔1〕

散布剤 A

ポリアクリル酸ソーダ、カルボキシメチルセルローズ及び硫酸の微粉末を1:3:4の割合で混合した組成物95部と、20%の割合で尿素を溶解含有するエチレングリコール溶液5部の混合物。

散布剤 B

散布剤 A 95部に更にエチレングリコール5部を添加したもの。

上記散布剤 A、Bを勾配1:15の傾斜地に1㎡当たり5g、10g、20g及び30gの割合で排気量37ccの散粉機を使用して散布し、その後1㎡当たり3gの水を散布した。そして、1日経過後に人工降雨装置で200mm/hrの降水試験を1時間実施し、耐侵蝕性を調査した。

結果は第1表の通りである。

特開 昭52-68715(4)
第 1 表

散布剤	散布量(%)	耐侵蝕性(%)
A	5	68
	10	27
	20	4
	30	0
B	5	71
	10	30
	20	6
	30	1

$$(注) \quad \text{耐侵蝕性}(\%) = \frac{\text{被侵蝕面積}}{\text{散布処理面積}} \times 100$$

実施例〔2〕

散布剤 A に種子及び肥料を混合した下記組成物を勾配1:15の傾斜地に排気量37ccの散粉機を用いて1㎡当たり80gの割合で散布した。

散布剤 A	20g
化成肥料	50g
種子(ケンタッキー31 フェスキユ)	10g

その後、1㎡当たり3gの水を散布し、1日経過後に人工降雨装置で200mm/hrの降水試験を1時間実施し、耐侵蝕性を調査した。

その結果、土壌の侵蝕は認められず、種子の発芽率も50%前後であつた。更に発芽種子の発芽率は70%以上で、異常は認められなかつた。

実施例〔3〕

散布剤 C

ポリイタコン酸ソーダ、アルギン酸ソーダ、カルボキシメチルセルローズ、塩化アンモニウム及びプロピレングリコールを1:2:2:2:1の割合で含有する混合物。

上記散布剤 C を基剤とする下記組成物を傾斜地に1㎡当たり85gの割合で散布した。

散布剤 C	20g
コンポスト	60g
ウービングフアグラス	5g

種子は1週間以内に発芽し、以後順調に生育した。土壌の侵蝕もほとんど認められなかつた。

実施例〔4〕

散布剤 D

ポリエチレンオキサライド、ポリビニルアルコール、カルボキシメチルデンプン、尿素及びグリセリンの2:2:2:3:1からなる混合物。

上記散布剤 D を基剤とする下記組成物を傾斜地に1㎡当たり85gの割合で散布した。

散布剤 D	20g
ニトロフミン酸	60g
ウービングフアグラス	5g

種子は1週間以内に発芽し、以後順調に生育した。また、土壌の侵蝕もほとんど認められなかつた。

特開 昭52-68715(5)

実施例(5)

散布剤E

ポリアクリル酸ソーダ、カルボキシメチルセルロース及び尿素の微粉末を1:3:4の割合で混合した組成物95部と、20%の割合で尿素を溶解含有するエチレングリコール溶液5部の混合物。

上記散布剤Eを基剤とする下記組成物を用いてKH₂型ヘリコプターによる空中実播の緑化工試験を行なった。

	ha当りのkg数	1飛行当りのkg数
散布剤E	200	22.5
肥料		
化成肥料(12:8:6)	700	79.3
硫酸	200	22.6
油粕	800	90.6
種子		
ヤシヤブシ	40	4.5
ユニシダ	50	5.7
メドハギ	30	3.4

ヨモギ 20 2.3

合計 2040 180

上記組成物の混合はミキサ-N S A 8型45P²で行なった。

施工後、2ヶ月目には被侵蝕区はほとんど認められず、種子は均一に発芽し、良好な植生が得られた。施工後6ヶ月後の各種子の生育調査結果を第2表に示す(数値は1㎡当りのものを示す)。

第2表

	ヤシヤブシ	ユニシダ	メドハギ	ヨモギ	計
残存量(本)	4.4	8	3.5	160	247
成長量(cm)	6.2	3.7	4.1	37.3	-

このように、本発明の方法では非常に良好な緑化ができることがわかる。

特許出願人 林化学工業株式会社
代理人 新 実 健 郎 (外1名)

手続補正書

昭和51年5月19日

特許庁長官 殿

1. 事件の表示 昭和50年特許願第145326号
2. 発明の名称 土壌安定散布剤
3. 補正をする者
事件との関係 特許出願人
氏名(名称) 林化学工業株式会社
4. 代理人 〒604
住所 京都市中京区御幸町通三条上る丸屋町330番地の1
氏名 弁理士(1618) 新 実 芳 太 郎
5. 補正命令の日付 自発補正
6. 補正により増加する発明の数
7. 補正の対象 明細書、発明の詳細な説明の欄
8. 補正の内容
(1) 明細書、第11頁第11行及び第12頁下から3行目、「1:15」とあるをそれぞれ「1:1.5」と補正する。
(2) 同書、第15頁下から「ユニシダ」とあるを「エニシダ」と補正する。

PAT-NO: JP352068715A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 52068715 A

TITLE: SPRAYING SOIL STABILIZER

PUBN-DATE: June 7, 1977

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

KISHIMOTO KOUJI

ASSIGNEE-INFORMATION:

US-CL-CURRENT: 405/263